

北の生物多様性を 守るために

北海道の環境活動のネットワーク「きたネット」の年に一度のフォーラム。北海道の生物多様性を守るために、今、市民ができることは何か、何を学び、誰とつながるのか、環境を地域の力にしていかにするために、環境活動者ができることは何かを考え、次の実践につなげます。

研究者・拠点施設と市民活動は、どう連携できるか

【こあいさつ】10:00～10:10

定員
120名



【基調講演】10:10～11:10 野生の猛禽を診る・守る

～日本とサハラ、猛禽類保全活動の現場から

講師/齊藤慶輔氏 法政大学環境学専攻 特任 助教授

鳥類系ワタミドの頂点にいる猛禽類を守ることは、野生動物と人間を取り巻く自然環境を丸ごと守ること。鶴岡市を拠点に猛禽類の治療・保全活動に取組む齊藤研究員は、傷病・死亡原因を究明し、これを元へ人為的な乱獲を軽減・予防するための生息環境の改善(環境治療)の取組みや、ロシア極東サハラにおける調査活動などについてお話しいただきます。

12/10 (土) 10:00～17:30 (9:30受付開始)

【会場】札幌エルプラザ2F 環境研究室(札幌市北区北8条西3丁目)

【参加費】きたネット会員・学生/1000円 一般/1500円

事前申込要 詳細は裏面をごらんください

【環境中間支援会議・北海道共創プログラム】

研究者・拠点施設と市民活動のつながり
～コミュニケーターとしての市民参加

【話題提起】11:20～12:20



■現場と協働した
大学院での人事育成

山中 康輔氏 北海道大学大学院環境科学専攻 助教授

■北大総合博物館を拠点としたネットワークがめざすもの

大原 昌宏氏 北海道大学総合博物館 副館長 助教授

【休憩】12:20～13:20

【分科会】13:20～15:20

分科会AorBの
どちらかを選択!

定員
60名



【分科会B】
野生との距離感、
共生のリテラシー

コーディネーター
/山本 牧氏
NPO法人のびのびと北海道代表

■現状と課題
難題突破から、次の一手を考える 齊藤 慶輔氏
■討論 山本 牧氏x齊藤 慶輔氏
「ヒトは、共生を学ばなければいけない」

【分科会A】

環境中間支援会議・北海道 連続勉強会
地域を元気にする施設、施設を元気にする地域
～地域・市民・施設の共創～

【事例1】美術館「小さな町の大きな博物館」
町田 昌廣氏 美術館学芸員 学芸員

【事例2】「地域と環境情報施設の共創による地域資源の活用」
～種差海岸インフォメーションセンター～
町田 直子氏 NPO法人AGTY 理事長 (青森県人評)

■ディスカッション「地域と環境学習施設の共創について考える」
コーディネーター/大原 昌宏氏



定員
60名

学び・伝え、広げるために
分野別 情報交換会 15:35～17:10

【進行協力】

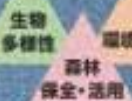
高木 晴光氏 (北海道立自然博物館 運営委員)

籠井 歩氏 (北海道教育大学 教授 環境学)

内山 賢氏 (公益財団法人北海道環境財団 専任 学芸員)

【活動紹介】

CISEネットワーク、学芸員ネットワーク、きたネット 他



使ってみよう!
CISEネットワークの
トランクネット!

きた-net forum 2016

17:10
～17:30 まとめ～閉会

18:30～ 交流会

(会場半定・実費、事前申込受)

北の生物多様性を 守るために

研究者・拠点施設と市民活動は、どう連携できるか

2016.12.10(土) 10:00開会 / 17:30終了

会場/札幌エルプラザ2F 環境研究室 (札幌市中央区南一条西3丁目)

参加費 きたネット会員・学生/1000円・一般/1500円

参加申込書 FAX・E-mail・電話でお申し込みください。申込締め 12/6(火) (先着順・定員になり次第終了)

profile プロフィール

齊藤 慶輔 氏 Keisuke Saito

日本学術振興会大学院生物科学研究費助成事業、幼少時代をフランスの田舎町で過ごし、野生動物と人間の共存を肌で感じた生活を送る。94年より環境省自然環境野生動物保護センターで野生動物専門の自然保護として活動開始。2005年同センターを拠点とする環境保護学研究所を設立、代表を務める。地域の発展に資する自然環境の保護活動の一環として、保護者の協賛と野生動物に對するものに加え、保全策の立場から調査研究を行う。近年、保護・再生の観点から、その予防のための保全策の役割を「環境教育」とも捉え、活動の主体としている。テレビ番組プロフェッショナル仕事の流儀、ソロモン島、ニュース24、SWITCHインタビュー-達人達などで活動が取り上げられ反響を呼んだ。著書「野生動物の本音者かん(実録)」で第9回環境文化賞を受賞。世界野生動物保護基金(WWF)理事、日本野生動物学会幹事、環境省若手野生動物保護推進委員。

山中 康裕 氏 Yasukuro Yamamoto

北海道大学大学院理学研究科、1964年東京都新宿区生まれ。1991年東京大学理学部、1998年北海道大学助教授を経て、2010年より現職。専門は地味環境化および環境教育。「社会に何かを生かす人材を育てよう」と理念として、実践環境科学コースを設立。多くの団体と連携して、学生とともに活動に取り組み、今、互いの人生を豊かにする人と知り合っていく楽しさを感じている。

大原 昌宏 氏 Masahiro Ohara

北海道大学総合情報学 教授、新編員、東京都出身。北海道大学大学院農学研究科博士課程を修了後、小樽市博物館学芸員、北大農学部助手を経て、2013年より現職。専門は昆虫分類学、甲虫類シシムシの分類のアジア第一の研究者、日本甲虫学会英文誌編集長、日本昆虫学会別文誌編集長、北海道自然史研究会会長、CISEネットワーク代表。次世代の科学普及を推進(「ロケットノミスト」執筆)を推進。取材はガラスと虫とをテーマ。

町田 直子 氏 Naoko Machida

NPO法人ACTY 理事長 (東京都八戸市)、京都女子大学経済学部卒業。コロンビア大学ジャーナリズム学部卒業、JTBワールドワイド日本にて海外旅行マーケティングと商品開発、国際化と緑の博覧会海外推進課課長兼主任、スリランカ大使館参事、ポルトガル大使館参事、八戸にてまちづくり活動を始める。特定非営利活動法人ACTY設立、株式会社ACプロモートを立ち上げ、地域ブランディング戦略のもと観光開発を進める。現在は自然環境教育委員を務める。

町田 善康 氏 Yoshikazu Machida

環境植物学専攻。1980年生まれ。北海道大学水産科学研究科修士課程修了。幼少期から、川遊びが大好きで、毎日のように川に遊びかけた。大学でも、魚を研究するほどの魚好き。多くのことを教えてくれる川の恵れを守るため、手作り魚屋や特設外展場ウチザサゴの植物状況など、地域の力と共にふるさとを自然再生に取り組み。

山本 牧 氏 Makoto Yamamoto

NPO法人もりねっと北海道 代表。1955年、福井市生まれ。74年、北海道大学入学。北大ヒグマ研究グループ入り。80年農学博士課程修了。81年大学助教授を経て、北海道新聞社入社。社会部次長、富良野支局長、編集局長など。2010年退社。NPO法人もりねっと北海道理事長を経て、現在代表。ヒグマの会副会長、北海道自然環境協議会理事、環境大賞特別賞。

環境中間支援会議・北海道

札幌圏で活動を行っている環境省北海道環境パートナーシップオフィス(EPO北海道)、公益財団法人北海道環境財団、札幌市環境プラザ(特定公益活動)公益財団法人さっぽろ青年女性活動協会、特定NPO法人北海道青年環境ネットワークの4団体が連携して、北海道内におけるさまざまなセクターの環境活動を支援するために、より体系的に役立つ組織を創出し設立された組織。掲載情報ポータルサイト「環境カナビ北海道」を運営するほか、道内の環境保全活動を推進するためのネットワーク形成や地づくりに関する中間支援活動を行っている。

CISEネットワーク

CISE (Community for Intermediation of Science Education) ネットワークは、札幌周辺地域の教育施設が連携し、地域住民への寓物科学教育を進めるネットワークです。博物館、図書館、科学館、動物園、水族館、野外研究施設などの教育施設などが連携し、施設開放や講座・資料を活用した教材開発開発などを行い、その結果を地域の知財とし、地域の科学成育プログラムを高めることを目指しています。こうした取り組みは、地域経済の創生にもつながっています。2016年10月、環境生物多様性の10年日本委員会によるUNOB-10認定優秀事業(第2期)として正式に認定されました。



10:00~ 【開会式・こあいさつ】
秋山 孝二 特定NPO法人北海道自然環境ネットワーク 理事長
片下 真司 一般財団法人セブン・イレブン 北海道本部 副理

10:10~11:10 【基調講演】定員120名
野生の猛禽を診る・守る
~日本とサハリン、猛禽保全活動の現場から
齊藤 慶輔 氏 環境省自然環境学 代表 副理事

環境中間支援会議・北海道 共同プログラム
研究者・拠点施設と市民活動のつながり
~コミュニケーターとしての市民参加

11:20~12:20 【話題提供】
環境財団と設立した大学院での人事育成
山中 康裕 氏 北海道大学大学院理学研究科 教授
北大大学院を拠点としたネットワークがめざすもの
大原 昌宏 氏 北大総合情報学 教授 副理事

12:30~13:20 【休憩~昼食】
CISEネットワーク トラックキットの展示をご覧ください。

13:20~15:20 【分科会】 ※分科会AorBのどちらかを選択

●分科会A 定員60名
環境省自然環境学 北海道 環境教育課
地域を元気にする施設、
施設を元気にする地域
~地域・市民・施設の共創~

事例1 環境省施設「小さな町の大きな博物館」
環境省自然環境学 北海道 環境教育課 副課長 町田 直子 氏
事例2 「地域と施設情報施設の共創による
地域資源の活用」
~環境省自然環境学インフォメーションセンター
NPO法人ACTY理事長 町田 直子 氏

ディスカッション
「地域と環境学習施設の共創について考える」
コーディネーター 大原 昌宏 氏 (北海道大学総合情報学 教授)
コーディネーター 町田 善康 氏 (環境省 副課長)

開かれた施設(場)があることで、そこに人が集い、情報が集まり、そこから交流が生まれ、さまざまな活動や事業がはじまる...そんな地域を元気にする力が環境・自然環境には必要ではないでしょうか。環境省や施設側の作成などに市民の参加を促すべく「開かれた施設情報」と、地域の活性化に繋いで、地元自治体や企業と連携し、地元と施設が共創している環境省自然環境学インフォメーションセンター、2つの事例を基盤とし、市民と施設との共創の可能性について考えてみます。

●分科会B 定員60名
野生との距離感、共生のリテラシー
コーディネーター 山本 牧 氏

事例1 環境省施設から、次の一手を考える 齊藤 慶輔 氏
事例2 山本 牧 氏×齊藤 慶輔 氏
「ヒトは、共生を学ばなければいけない」

「自然が豊か」と言われる北海道ですが、実はどこにも自然が豊か、特に野生動物について意識しつていないという現状。身近な動物を愛せない、山猫は必要以上に攻撃する、ヒグマは怖いが生息地は知らない...などから心配です。ヒグマに詳しい山本牧氏、自然環境の保護や共生の観点から野生動物保護の第一人者、野生との距離感、共生のリテラシーにフォーカスし、開かれた施設、施設開放などを通じて、「市民と自然の共生を、学ばせていただきます」。

16:30~17:10 学び・伝え、広げるために 分野別 情報交換会
(進行協力)
高木 晴光 氏 (環境省自然環境学 環境教育課 副課長)
菅原 幸 氏 (北海道新聞社 北海道支社 編集)
内山 潤 氏 (公益財団法人北海道環境財団 代表理事) 員
【基調講演】
CISEネットワーク、学芸員ネットワーク、きたネット 他

17:10~17:30 【まとめ・閉会】
18:30~
交流会 (札幌駅周辺で開催・無料)

参加申込書 FAX. 011-215-0149 FAXまたは電話、E-mailでお申し込みください (12/6(火) 締め)

| | | |
|-----------|---------------|--|
| お名前(フリガナ) | 男・女 | <input type="checkbox"/> 基調講演/話題提供(定員120名) <input type="checkbox"/> 分科会(人数は2名を超過して下さい) <input type="checkbox"/> A(定員60名) <input type="checkbox"/> B(定員60名) <input type="checkbox"/> 分野別 情報交換会 <input type="checkbox"/> 18:30~交流会(会場未定・無料) |
| ご住所 〒 | 所属団体・企業・職業・学校 | |
| Tel | | |
| Fax | | |
| E-mail | | |